

第53回 河川保全利用委員会(琵琶湖河川事務所)の開催報告

平成30年12月4日(火)に「第53回河川保全利用委員会(琵琶湖河川事務所)」が開催されました。前回に引き続き「野洲川川田河川公園」について審議が行われ、「審査表」及び「意見書(案)」についてそれぞれ内容が確定されました。

意見書については平成30年12月27日付けで市木委員長より琵琶湖河川事務所長宛に提出されました。(内容は次頁以降でご紹介します)

■開催日時 : 平成30年12月4日(火) 13:30~14:20

■場所 : ウォーターステーション琵琶 1階会議室

■参加者 : 委員5名、河川管理者4名、事務局4名 傍聴5名



第53回委員会審議

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - 1) 第52回委員会活動の整理事項
 - 2) 野洲川川田河川公園の更新申請に係る審議
 - (1) 審査表について
 - (2) 意見書(案)について
 - 3) 委員会の今後のスケジュールについて
3. その他
4. 一般傍聴者からの意見聴取
5. 閉会

配布資料

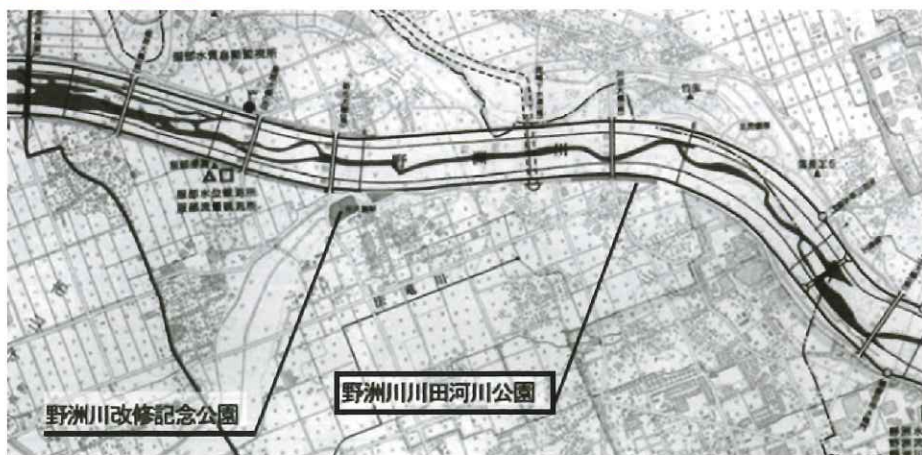
- ・議事次第
- ・資料-1 第52回河川保全利用委員会 議事骨子整理表
- ・資料-2 第52回河川保全利用委員会 審議事項の整理表
- ・資料-3 審査表
- ・資料-4 意見書(案)
- ・資料-4-1 意見書(参考)
- ・資料-5 今後のスケジュールについて
- ・参考資料-1 審議対象となる野洲川占用施設 一覧

河川保全利用委員会委員のご紹介 (五十音順)

石川 俊之
市木 敦之(委員長)
竹林 洋史
中井 克樹(副委員長)
中島 正一
長谷川 健次

滋賀大学 教育学部 准教授
立命館大学 理工学部 教授
京都大学 防災研究所 准教授
滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員
一般公募
滋賀県 土木交通部 流域政策局 河川・港湾室

■野洲川川田河川公園 位置図



平成30年12月27日

国土交通省 近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所長 水草 浩一 様

河川保全利用委員会
(琵琶湖河川事務所)
委員長 市木 敦之



占用許可申請に対する意見書
(守山市 野洲川川田河川公園)

平成30年9月19日付け国近整琵琶占調第23号にて意見照会のありました以下の占用許可申請について、下記のとおり答申いたします。

占用許可申請の概要

名 称	野洲川川田河川公園
場 所	守山市川田町地先 (左岸 5.2k+50m~5.8k+80m 付近)
主 な 施 設	多目的広場、緑地広場、グラウンドゴルフ場、グラウンドゴルフ場②、駐車場、坂路
申 請 者	守山市
占 用 面 積	34,152.40㎡

1. 委員会としての判断・要望

野洲川川田河川公園は平成13年に策定された「野洲川河川空間整備基本構想」に基づき、平成14年に野洲川左岸の高水敷に設置されたものである。

設置当初の主な施設は多目的広場、緑地広場、グラウンドゴルフ場などであったが、平成22年10月より緑地広場1箇所をグラウンドゴルフ場に変更している。その後、平成27年4月にグラウンドゴルフ場付近に移動式トイレを増設する等、利用状況に合わせて工作物の追加、移動等の変更を行っている。また、平成29年より公園管理用通路がビワイチよりみちコースの一区間としてサイクリングに利活用されている。

施設利用は自由使用が原則であり、利用者相互のルールで運用されている。利用者は地元住民を中心に他の地域の住民も利用しており、地域に密着した利用者間の交流が図られている。利用状況についてはグラウンドゴルフを中心とした利用が活発に行われていると同時に、利用者による整備、維持管理も行き届いており、市民と行政との協働が図られている。

また、最近では親水空間の利用として、市内の児童を対象に野洲川河川学習会が実施されている。

しかし、占用箇所は高水敷の全幅を占用した利用であり、生態系を含めて環境面を考えると、占用区間の距離が長く、生物の生息・生育環境を縦断方向に分断していることから、それらに影響があると考えられる。

一方、河道内に施設が設置され適正な維持管理が行われていることは、樹林化抑制の観点から治水及び河川管理に資するものと判断する。

当委員会は、「河川敷利用の基本理念・基本方針」に則り、当該施設の更新申請について審査を行った。その結果、当該施設はスポーツ施設等の本来河川敷以外での設置・利用が可能であるため、代替地の確保、あるいは「河川敷利用の基本理念・基本方針」を踏まえた利用形態への変更を行うべきと判断する。これについては前回意見書（平成27年2月5日付け）においても検討を行うよう意見を付したところである。これに対して検討は行いつつも、いずれも実行は困難であるとしており改善されていない。

また、前回意見書で親水空間としての具体的な利用方法を検討するよう要望した点についても実行できていない。しかし、親水空間の利用として、市内の児童を対象に野洲川河川学習会が実施されており、また、河道内樹木伐採に係る計画・調整について河川管理者において検討される予定である。

これらのことから、当委員会は意見に対して適切な改善、実行がなされない限り占用許可の更新は本来妥当でないと考えるものの、治水面では樹林化抑制の観点から治水及び河川管理に資するものであること、利用面では地域住民による利用が活発であり自主的な維持管理が行われていることや地元からの存続の要望も高いことから、当面の占用許可の更新を行うこととする。今後は下記に付す意見に対する実施が確実にされることを期待する。

【占用許可期限の更新についての意見】

- ① スポーツ・レクリエーション施設の代替地の確保、あるいは「河川敷利用の基本理念・基本方針」を踏まえた利用形態への変更を、引き続き検討し、実行すること。
- ② 上記意見の検討期間を2年とし、河川管理者は申請者による対応結果を当委員会へ報告すること。なお、対応結果の報告は2021年度の委員会において行うこと。

【占用許可期限の更新に関連する要望事項】

- ① 親水空間としての具体的な利用方法について、利用者の安全と環境の保全に配慮のうえ、引き続き検討されたい。なお、前回までの計画・意見にあった既設の護岸階段を利用した低水路へのアプローチについては、引き続き検討の余地はあるものの、親水

- 空間としての具体的な利用方法であれば、これ以外であっても否定するものではない。
- ② 申請者及び河川管理者は、本意見書に付す意見について真摯に受けとめ、「河川敷利用の基本理念・基本方針」を踏まえた利用形態となるよう引き続き協働して改善されることを望む。

2. 検討の経緯

平成30年 9月19日

諮問文書の受理

第52回委員会

- ・施設の現地調査
- ・河川管理者による占用許可申請説明書の説明
- ・委員による更新申請に係る審議

平成30年12月 4日

第53回委員会

- ・委員による更新申請に係る審議
- ・委員による意見書(案)の審議

3. これまでに提出した意見書

平成19年 1月18日付け意見書

平成21年 3月31日付け意見書

平成22年10月12日付け意見書

平成27年 2月 5日付け意見書

(3/3)

以上

今後の委員会開催予定

○ 第54回委員会

開催日時及び場所は未定のため、決定しましたら琵琶湖河川事務所ホームページにてご案内いたします。

■ 主な審議内容

「野洲川改修記念公園」に係る審議

※審議内容については進行の都合上、変更となる場合があります。